

僕が家を出る時、ピカピカの靴をはきながら、「ほな、一時におぼとこへ行つて、三時頃出発する」と言ったら、「なんや、ほな、もっとゆっくり寝さしといてあげたら良かったなあ。夕べ、夜、遅かったしい。」と言う。

その時、やっと、わかった。

母は「一時に行く」と、  
「一時に京都駅出発」とを勘違いしていた為、  
早くから、せかせかと用意していた訳だ。

僕の京阪電車の定期を兄貴に貸してあるので、  
この間のバスで、まず、七条京阪迄ゆく事にした。  
バス代三十円。

おぼとこに着いたら十時頃。

昨日つぶした寝台に、恐る恐る横になったり、  
テレビを見たり、時間が立つのを待つ。

大変、蒸し暑い。

扇風機を長い間、断続的にかけつつ、体を延ばす。

胃の調子が少し悪い。

昼めしを抜くつもりだったけど、  
腹がすぎ過ぎて、船に乗って酔ってしまつては困るので、  
外に出て、パンとミルクを買いに行くことにした。